

【全体概要】

浮皮果の発生が少なく、食味の良好な‘きゅうき’の栽培管理方法を確立し、面積の拡大を図る。

また、実需者(卸売市場等)との連携により、年末～年明けの個性化商品を開発し、産地ブランド力の向上につなげる。

新品種・新技術等の概要

【温州ミカンの新品種‘きゅうき’】

温州ミカンでは、秋期から収穫期にかけての温暖多雨により浮皮や果皮障害の発生が問題となっている。

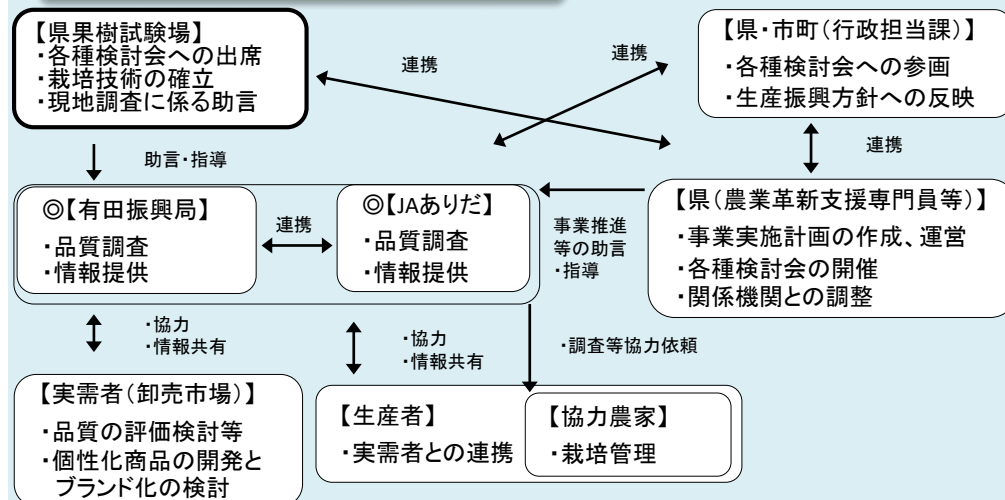
そんな中、浮皮が少なく、じょうのう膜の薄い食味良好な‘きゅうき’が、平成26年2月に品種登録され、一部地域に苗木が導入されている。

そこで、栽培園地において基礎データを収集、適地性や栽培管理方法等を確立し、高品質安定生産を図る。

また、実需者(卸売市場等)との連携により、年末から年明けの個性化商品の開発を検討し、産地ブランド力の向上につなげる。



実施体制図



課題と今後の対応

【1年目の主な結果】

- ・着果程度により、樹冠拡大が鈍化する傾向が見られた。
- ・簡易貯蔵により、40日程度の果実品質保持が可能であった。

【課題】

- ・果実品質を維持しながら、樹冠拡大させる着果管理の検討
- ・年末から年明け出荷品種としてのブランド力確立

【今後の対応】

- ・高品質安定生産に向けた栽培資料の作成・配布
- ・生産者と実需者に対する情報提供及びマッチング活動

主な取組内容

- ① 品種の特性把握
 - ・生育状況(16園)、果実品質(10園)の調査
 - ・透湿性シート被覆による簡易貯蔵試験
- ② 検討会の開催
 - ・調査結果報告会、試食検討会
- ③ 県外産地の情報収集
 - ・園地及び貯蔵時における品質保持対策(3県4か所)

